

第４回栗東市子ども・子育て会議 会議録要旨

日時・場所	令和６年３月１９日（火） 午後６時３０分～午後７時３０分 栗東市危機管理センター３階大研修室
出席委員	山守慎介委員、中藪麻衣子委員、外柵保貴美子委員、白井洋一委員、井上明美委員、田中裕委員、木築野百合委員、山中忍恵委員、沖田文子委員、山本初子委員（副会長）、井上和子委員（会長）、北村一子委員、長岡由美委員
欠席委員	伊吹唯衣委員、加藤雅也委員、中川章子委員
事務局	こども家庭局長、幼児課長、幼児課参事、こども家庭センター所長、こども家庭センター係長、子育て支援課長、子育て支援課係長、子育て支援課子育て支援係担当 ジェイエムシー株式会社
事 項	１ 開会 ２ 市民憲章唱和 ３ 挨拶 ４ 議事 （１）令和５年度各事業の進捗管理について【資料１】 （２）第３期子ども・子育て支援事業計画策定について 【資料２、資料２（追加）】 ５ その他 ６ 閉会

１ 開会

・事務局より傍聴希望者が１名おられることを報告した。

２ 市民憲章唱和

３ 挨拶

・会長挨拶。

４ 議事

（議事１）

令和５年度各事業の進捗管理について【資料１】

・事務局が資料の説明を行った。

委員 新設の学童保育所について送迎方法や保育内容について聞きたい。

事務局 送迎については、学童保育所の支援員や各学童保育所運営事業者より委託を受けた業者が学校まで児童を迎えにいくことになっている。保育料や開所時間については、既存の市内法人立学童保育所とほぼ同内容となっている。

会長 学級閉鎖で学校に行けないが、本人の健康状態に問題がなく、保護者が働いている児童の受入についてはどうなるのか。

- 事務局 学童保育所は、異年齢の児童が集まる施設であり、そこから更なる感染の拡大につながることを懸念し、学級閉鎖があった学級に通っている児童については、受入できない状況となっている。
- 会長 病後児保育事業等での受入は難しいのか。
- 委員 病後児保育事業では、学級閉鎖の対象学級児童で健康状態に問題のない児童の受入については対象外としている。定員に限りがあるという問題や、通常の病後児保育事業の利用者から健康な児童への感染の恐れがあるため、受入は難しいと考えている。
- 事務局 現在、共働き家庭の児童の預け先としては、学童保育所が中心となっているが、学級閉鎖時については、感染リスクもあることから、現状は家庭で見られている状況だと思う。市においても子育て支援策の充実を図る必要があると考えており、令和7年度からファミリー・サポート・センター事業の開始を検討している。どのように実施していくか詳細は未定であるが、児童の受け皿の確保策として検討している。
- 委員 ファミリー・サポート・センター事業は、保育所や幼稚園に在籍している子どもも利用できるのか。
 現在、保育所には学級閉鎖がなく、小学校と保育所に通う兄弟姉妹のいる家庭では、弟妹のみ保育所に通所しているという現状がある。できるだけ早期にファミリー・サポート・センター事業の実現を検討いただくと同時に、弱者に寄り添った支援ができるよう検討してほしい。
- 事務局 ファミリー・サポート・センター事業は保育所や幼稚園に通う子どもも会員登録をしていれば利用することが可能である。事業開始に向けた進捗等については、随時報告させていただく。

(議事2)

第3期子ども・子育て支援事業計画策定について【資料2】

- ・事務局が資料の説明を行った。

- 会長 ニーズ調査票回収率について、前回より下がっていることについてはどう考えているのか。
- 事務局 第2期計画策定時では市全体の子育て支援策や保育所の整備等が進んでいない状態であり、比較的関心が高かったことが回収率の上昇につながっていたと考えている。集計結果については、今後確認をしていくことになるが、回答していただいた意見を踏まえながら、第3期計画の策定を進めていきたいと考えている。
- 委員 実際にアンケートに回答したが、何を問いたいのかをはっきりさせておく必要があったのではないかと感じる。次回、アンケートを行う際には改善したほうが良いと感じた。

事務局 設問数が多く、わかりにくかったという声を聴くが、今後の子育て支援策につなげるためにニーズを把握していくためのものとなっている。

 本日いただいた意見や調査票でいただいた意見等を踏まえ、今後に活かしていく。回収率は、前期より若干下がったものの、検証するには十分な回収率だと考えている。

委員 国においても保育施策が変わってきている現状があり、「こども誰でも通園制度」もその中の一つとなっている。第3期計画を策定するにあたっては、こういったものも盛り込んでほしい。

 また、「こども誰でも通園制度」については、保育施設でもどのように実施するのか検討をしていかなければならないが、保育所や幼稚園に限定するのではなく、様々な施設での実施を検討してほしい。

事務局 県や関係機関と相談しながら、事業の実施可否や実施方法を含め、十分検討していきたい。

委員 保育所や幼稚園等で受入できていない子どももいるため、そういった方の受皿としても考え、前向きに検討してほしい。

事務局 「こども誰でも通園制度」に限らず、様々な子育て支援事業の実施を鑑みて検討していく必要があるため、この会議の場でも議論いただきたいと考えている。

5 その他

認定こども園設置について

・令和7年4月開園に向け、認定こども園の設置を予定していたが、3月18日に事業予定者の代表者より、地域住民の方に対し、設置予定地での本事業の中止を決断し、今後栗東市との協議に移行する旨を示した通知を配布したと報告を受けたことを報告する。

次回の会議日程について

・次回の会議は、5月開催予定としている。

6 閉会

・副会長挨拶。

以上